

# 教育委員会事務点検・評価報告書

(令和4年度事業対象)

令和5年9月

竹原市教育委員会

# 目次

1	教育委員会の事務の点検・評価制度について	1
2	評価の方法	2
3	令和4年事業の点検及び評価	3
	(1) 学校教育	
	(2) 生涯学習・青少年育成	
	(3) 歴史・文化	
4	評価委員の評価	31
6	参考資料	38
	(1) 竹原市教育大綱（抜粋）	
	(2) 令和4年教育委員会会議開催実績	
	(3) 令和4年度全国学力・学習状況調査結果	
	(4) 令和4年度体力テストの結果	
	(5) 生徒指導上諸課題の状況（令和2年度～令和4年度）	
	(6) 令和4年度図書館・美術館利用状況	

# 1 教育委員会の事務の点検・評価制度について

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、平成20年度から、全ての教育委員会は、毎年度、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることも規定されています。

竹原市教育委員会では、この法律に基づき、教育委員会の事務の点検・評価を行い、教育行政サービスの質の向上と効率化を進めてまいります。

(参考) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (平成19年6月27日一部改正)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 評価の方法

### (1) 点検・評価の対象となる事業

竹原市では、平成31年3月に「竹原市教育大綱」を策定し、市長部局と教育委員会が連携し、取り組むべき3つの柱を掲げました。そのうち、重点的に取り組む施策を推進するための事務事業について、令和4年度の実績に基づき、それぞれ点検・評価を行います。

#### 【竹原市教育大綱】

- ・学校教育（評価対象事業数 12）
- ・生涯学習・青少年育成（評価対象事業数 5）
- ・歴史・文化財（評価対象事業数 3）

### (2) 対象となる期間

令和4年度とします。

### (3) 点検・評価の方法

評価対象事業となる20の事業について、必要性、効率性及び有効性の観点を中心に、前年度の評価委員からの意見を踏まえ、評価シートごとに、点検・評価を行いました。

個別評価及び総合評価については、達成度及び今後の方向性を次のとおりそれぞれ4段階評価及び7段階評価で行いました。

#### 【達成度（4段階評価）】

達成度
達成している
ほぼ達成している
ある程度達成している
達成していない

#### 【評価基準（7段階評価）】

評価
拡大・重点化
改善
継続
縮小
終了・完了（今年度中）
統合（今年度中）
廃止（今年度中）

### (4) 評価委員による評価

5名の学識経験者の方による外部評価を行いました。

### 3 令和4年度事業の点検及び評価

#### (1) 学校教育

重点的施策	点検・評価の対象事業
地域ともにある信頼される学校づくりの推進	コミュニティ・スクール推進事業
	教職員の人材育成
幼保小連携教育の推進	スタートカリキュラム
「確かな学力」の向上	未来の人材育成事業
	「学びの変革」全校展開
	学校 ICT 活用教育推進事業
	特別支援教育, 介助員配置
「豊かな心」の育成	生徒指導支援事業
	竹原市キャリアスタートウィークの実施 道徳教育推進
「健やかな体」の育成	体カテストの分析を通じた指導の工夫改善
充実した教育環境づくり	小中一貫教育の推進
	竹原市立学校適正配置計画策定事業

#### (2) 生涯学習・青少年育成

重点的施策	点検・評価の対象事業
生涯学習拠点・機会の充実	地域交流センター運営事業
	図書館運営事業
	竹原市総合文化祭開催事業
	ときめき講座開催事業
学校と地域の協働による生涯学習の推進	学びから始まる地域づくりプロジェクト 文化芸術体験等事業
スポーツ・芸術の振興	スポーツ推進委員活動事業
	トップアスリート等スポーツ教室
	各種大会等開催事業
	竹原市美術展開催事業
家庭・学校・地域等の連携による教育力の向上 の推進	家庭相談員、子ども会育成事業
	青少年育成竹原市民会議

(3) 歴史・文化財

重点的施策	点検・評価の対象事業
文化財の保存・承継の推進	歴史的建造物調査分析事業 旧森川家住宅保存修理事業 伝統的建造物群保存事業
文化財の活用の推進	文化施設管理運営事業 歴史的建造物社会実験実施事業
歴史資産の普及啓発の推進	竹原歴史文化啓発事業 重伝建選定40周年記念事業

<b>重点的施策 地域とともにある信頼される学校づくりの推進</b> <b>【学校教育】</b>		<b>担当課</b>						
<b>事業内容</b>		総務学事課						
○学校の自主性・自立性の確立 ○人材育成の推進 ○開かれた学校づくりの推進								
<b>事業目標</b>								
法令に則った学校づくり・組織マネジメントを確立し、外部に積極的に情報発信するとともに、市内の全ての小・中・義務教育学校において「地域とともにある学校づくり」を実現するため、学校の運営及び必要な支援に関して協議する機関として学校運営協議会を設置する。 また、学校教育の直接の担い手である教職員の指導力向上に取り組む。								
<b>主要事業</b>								
コミュニティ・スクール推進事業 〔決算額〕 409千円	<b>【事業概要】</b> 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5にしたがって、学校運営協議会を全ての学校に設置する。							
	<b>【取組内容】</b> 令和4年度も引き続き、学校運営協議会を全校へ設置し、コミュニティ・スクールを推進した。コロナ禍の中ではあったが、各校とも学校運営協議会会議を計画的に開催し、学校運営の方向性や学校に必要な支援、協働的な教育活動などについて様々な立場で協議し、学校運営に地域、保護者の声を生かしてきた。また、市主催として教職員、学校運営協議会委員を対象とした研修会を実施することができ、コミュニティ・スクールの推進に向け、より理解を深めることができた。しかし、計画していた先進校視察、実践交流会等は実施できなかった。学校運営協議会へは事務局から積極的に参加し、指導助言を重ね円滑な運営に向けた支援を行った。							
	<b>【実施状況】</b>							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度末までに、市内全校で学校運営協議会を設置し、令和4年度以降は、活動の質の向上を図る。</td> <td>市内全校において、学校運営協議会を設置した。</td> <td>各校、地域とともに特色ある取組を推進した。</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	令和3年度	令和4年度	令和3年度末までに、市内全校で学校運営協議会を設置し、令和4年度以降は、活動の質の向上を図る。	市内全校において、学校運営協議会を設置した。	各校、地域とともに特色ある取組を推進した。	
項 目	令和3年度	令和4年度						
令和3年度末までに、市内全校で学校運営協議会を設置し、令和4年度以降は、活動の質の向上を図る。	市内全校において、学校運営協議会を設置した。	各校、地域とともに特色ある取組を推進した。						
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>						
市内全ての学校において、コミュニティ・スクールを推進してきた。各校において、特色ある取組を進めるにあたり、学校主導ではなく、子供たちの育成をめざし、地域からの発信による、地域とともにある学校づくりを推進するようになってきた。		ほぼ達成している						
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>						
引き続き、市主催の学校運営協議会委員を対象とした研修会や実践交流会等を実施し、効果的な実践や先行事例を通して、コミュニティ・スクールの効果等について共通理解を図り、学校や子供たちの課題解決や教育活動の充実に向けて建設的な議論ができる学校運営協議会の運営をめざす。		継続						

<b>重点的施策 地域とともにある信頼される学校づくりの推進</b> <b>【学校教育】</b>		<b>担当課</b>	
<b>事業内容</b>		総務学事課	
○学校の自主性・自立性の確立 ○人材育成の推進 ○開かれた学校づくりの推進			
<b>事業目標</b>			
法規法令に則った学校づくり・組織マネジメントを確立し、外部に積極的に情報発信するとともに、市内の全ての小・中・義務教育学校において「地域とともにある学校づくり」を実現するため、学校の運営及び必要な支援に関して協議する機関として学校運営協議会を設置する。 また、学校教育の直接の担い手である教職員の指導力向上に取り組む。			
<b>主要事業</b>			
教職員の人材育成 〔決算額〕 非予算	<b>【事業概要】</b> ・研修の実施及び校長ヒアリング等を通し計画的な人材育成を推進する。 ・学校教育の直接の担い手である教職員の指導力向上に取り組む。 ・学校経営の参画意識を高め、将来学校経営を担うミドルリーダー層を育成する。		
	<b>【取組内容】</b> ・校長による人材育成計画に基づき、ヒアリングを通して校内における個々の資質・能力に応じた人材育成について助言を行った。 ・キャリアステージに応じた市主催の研修を実施し、主任層をはじめミドルリーダー層への学校経営への参画意識を醸成した。 ・新規採用者、新規採用4年終了者等、若手教職員の力量形成及びやりがいを持って職務を遂行できるよう、学校とも連携し、訪問指導を行った。		
	<b>【実施状況】</b>		
	項 目	管理職選考	推薦研修
	令和4年度、管理職選考を校長職2名以上、教頭職4名以上受験させ、推薦研修には3名以上推薦する。	校長選考へ2名、教頭選考へ4名が受験した。	中央研修へ1名、教育総合講座へ3名推薦した。
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>	
広島県教員等資質向上指標をもとに、個々の教職員のもつ資質・能力やキャリアを生かした人材育成や適材適所による校務分掌の業務担当を推進している。 各主任や各教育内容担当者を対象とした研修会を計画的に実施し、専門性の向上を図ったり、訪問指導等による個別指導の機会を活かし、次期管理職候補の育成をめざしたスクールリーダー育成を図ったりした。 校内外の研修機会を活かし、人材育成を推進することができた。		ほぼ達成している	
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>	
教頭候補となる主任層の人材を育成することを重点に置き、主任として各部のマネジメントを通して、学校経営への参画意識を高めていくとともに、研修履歴を活用した対話に基づいた研修の受講奨励を行い、効果的かつ主体的な資質向上・職能開発を図り、校内外における人材育成を推進していく。		継続	



<b>重点的施策 幼保小連携教育の推進【学校教育】</b>		<b>担当課</b>
<b>事業内容</b>		総務学事課
○幼保小連携の推進 ○幼保小接続カリキュラムの編成・実施		
<b>事業目標</b>		
園所等で培った育ちと学びを小学校での学びにつなぐ教育活動を実現するため、相互が連携し、カリキュラムを作成する等、就学前教育と小学校以降の教育の円滑な接続を図る。		
<b>主要事業</b>		
幼保小連携教育 〔決算額〕 297千円	<p><b>【事業概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹原市幼保小連携協議会を立ち上げ、協議会を年間3回実施し、連携教育の充実に向けた組織体制を構築した。</li> <li>・認定こども園等と小学校等との保育・授業参観や理論研修を年間3回実施し、子供たちに育みたい資質・能力を共有することができた。</li> </ul> <p><b>【取組内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織体制を新たに構築することで、見通しを持った計画的な研修を実施することができた。また、年間3回実施した研修会では、保育・授業参観を行ったことで、子供たちの姿を通して研修を行うことができた。</li> <li>・年間3回実施した協議会においては、園所・小学校等の所属長が構成メンバーであるため、組織としての目指す方向性を共有することができた。</li> </ul> <p>〈参加者の感想〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○研修を通して講師の先生方の話を聞くことができ、改めて幼保小連携の大切さについて知ることができた。自分自身の保育で足りない部分や改善していかなければならない所にも気付くことができた。</li> <li>○今回の研修や協議会で学んだことを生かし、来年度さらによりよい活動になるよう計画・実践・改善していきたいと思う。そのためにもまずは園所と小学校が連携を深め、安心して子供たちが過ごせるよう努めていく。</li> </ul>	
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>
研修の時間設定を工夫することで、保育・授業参観を合同で行うことができ、大変効果があった。また、研修の中で、育てたい資質・能力を明確にしたスタートカリキュラムと園所等で作成しているアプローチカリキュラムをもとに、協議を深めることができたため、学びの連続性を教員が感じることができた		達成している
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>
今年度は協議会、研修会の計6回の会を設定し、計画的な実施が実現できた。来年度は、地区ごとの協議を行うなど、実施方法や研修内容を工夫することで、より子供たちの実態に即した研修となるよう改善を図っていききたい。また、小学校等においては、4・5月段階のアプローチカリキュラムの有効性を明確にし、指導方法の充実を図るためにも、早い時期での研修を計画していきたい。		継続

重点的施策 「確かな学力」の向上【学校教育】		担当課
事業内容		総務学事課
○基礎学力の定着・向上 ○主体的な学びの創造 ○ICT活用教育 ○特別支援教育 ○ことばの教育の推進 ○授業改善の推進		
事業目標		
将来社会人として地域に貢献し、豊かな人生を送るために、確かな学力を身に付け、自らの進路を切り拓くことができる教養ある児童生徒を育成する。		
主要事業		
未来の人材育成事業 [決算額] 8,694千円	<b>【事業概要】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハワイへの海外派遣研修事業を実施した。</li> <li>・姉妹校締結を行ったホノウリウリミドルスクールと、オンラインによる交流を行った。</li> <li>・1 DAY 国内留学 I 及び II を実施した。</li> </ul> <b>【取組内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度の派遣決定者、令和4年度の決定者の計14名でハワイへの海外派遣研修を実施した。参加生徒は、ハワイの文化や歴史を学習するとともに、異文化に触れ、多様な視点から考えることの大切さを感じることができた。帰国後は、報告会を行うことで、市内の児童生徒への還元を行った。</li> <li>・市内の児童生徒を対象とした1 DAY 国内留学 I、II を実施し、これまで身に付けた英語力やコミュニケーション力を活用するとともに、異文化の人々と交流する楽しさや喜びを感じることができた。</li> </ul> <海外派遣研修参加者の感想>           ○約1週間英語でコミュニケーションをとって、何よりも大切なのは自分の言葉で伝えることだと思った。伝えることで自分の成長につながり自信にもなった。           ○(ハワイの人は)自分の国に誇りをもっていた。私ももっと自分の国や竹原の良いところに誇りをもちたい。           <1 DAY 国内留学参加者の感想>           ○私は英語が苦手だったけど、国内留学を通して好きになりました。次に参加する時は、学校で習ったことを生かして質問したり答えたりしたいです。           ○友達と協力したり、1日中英語で過ごしたりすることで、自分に足りないことや改善すべきところを実感できてポジティブな気持ちになれました	

	<p>た。今英語で学習している単語だけでなく、少し難しい単語も調べスラサ会話をしてみたいです。</p> <p>【実施状況】</p> <table border="1" data-bbox="427 409 1331 510"> <thead> <tr> <th data-bbox="427 409 932 456">項 目</th> <th data-bbox="932 409 1139 456">令和3年度</th> <th data-bbox="1139 409 1331 456">令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="427 456 932 510">英語検定3級取得率</td> <td data-bbox="932 456 1139 510">32.0%</td> <td data-bbox="1139 456 1331 510">30.6%</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	令和3年度	令和4年度	英語検定3級取得率	32.0%	30.6%
項 目	令和3年度	令和4年度					
英語検定3級取得率	32.0%	30.6%					
<b>点検結果</b>	<b>達成度</b>						
<p>1 DAY 国内留学Ⅰでは、18名の児童が参加し、ゲームや留学生の出身国の紹介カードづくり等を通して、外国の文化を知るとともに、英語によるコミュニケーションを楽しむことができた。また、1 DAY 国内留学Ⅱでは、13名の生徒が参加し、たけはらの町並みを紹介する英文を考え、留学生にナビゲートしながら竹原の良さを伝えることができた。生徒はこれまでの既習内容を活用し、英語で説明したり、お互いの意思疎通をしたりする等、英語を実際に使うことの難しさや楽しさを感じる事ができた。</p> <p>また各学校においては、海外派遣研修参加者の学びをもとに、ホノウリウリミドルスクールの生徒たちとオンライン交流会を行い、他文化を知るとともに、英語に興味関心を持ち、今後の自分の生き方につなげることができた。</p>	達成している						
<b>今後の取組</b>	<b>今後の方向性</b>						
<p>引き続き、TGGの取組を進め、児童生徒の英語に対する興味・関心を高めるとともに、日常的に英語によるコミュニケーション力を高め、国際社会で活躍できる人材の育成を図る。同時に、グローバルな視点を持ち、異文化・自文化理解を深めることで、ふるさと「たけはら」を広く発信できる人材の育成につなげていきたい。</p> <p>また、各学校において英検受験について声かけをしてもらう。</p>	継続						

重点的施策 「確かな学力」の向上【学校教育】		担当課								
<b>事業内容</b> ○基礎学力の定着・向上 ○主体的な学びの創造 ○ICT活用教育 ○特別支援教育 ○ことばの教育の推進 ○授業改善の推進		総務学事課								
<b>事業目標</b> 将来社会人として地域に貢献し、豊かな人生を送るために、確かな学力を身に付け、自らの進路を切り拓くことができる教養ある児童生徒を育成する。										
<b>主要事業</b>										
「学びの変革」全校展開 [決算額] 非予算	<b>【事業概要】</b> ・県教委「小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業」の指定を受け、つまずきを分析する等、実践的な研究を推進した。(竹原小学校) ・県教委「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定を受け、カリキュラム開発等に関する実践的な研究を推進した。(吉名学園)									
	<b>【取組内容】</b> ・「学びの変革」推進協議会では、「本質的な問い」とともに、「教師のファシリテート」に焦点をあて、各教科等の見方・考え方に応じた授業改善を行った。また、「主体的な学び」の実現に向けた授業づくりや授業参観の視点等、各校の研究主任を対象とした研修を年3回実施した。 ・学力に課題が大きい児童を対象とした実態の把握と課題の背景にある要因を分析し、指導方法に焦点を当てた手立てを研究した。 ・学校訪問指導を行い、「主体的な学び」の実現に向けて、授業改善を推進した。									
	<b>【成果指標】前期目標（令和5年）</b> <b>&lt;小学校&gt;国語 3.0% 算数 2.0%</b> <b>&lt;中学校&gt;国語 1.0% 数学 0.5% 英語 2.0%</b>									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">基礎学力が定着している児童生徒の割合 (全国学力学習調査 通過率)(広島県平均比較)</td> <td>&lt;小学校&gt; 国語 1.0% 算数▲1.0%</td> <td>&lt;小学校&gt; 国語 4.0% 算数 3.0%</td> </tr> <tr> <td>&lt;中学校&gt; 国語▲4.0% 数学▲2.0%</td> <td>&lt;中学校&gt; 理科 4.0% 国語 3.0% 数学 5.0% 理科▲1.0%</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	令和3年度	令和4年度	基礎学力が定着している児童生徒の割合 (全国学力学習調査 通過率)(広島県平均比較)	<小学校> 国語 1.0% 算数▲1.0%	<小学校> 国語 4.0% 算数 3.0%	<中学校> 国語▲4.0% 数学▲2.0%	<中学校> 理科 4.0% 国語 3.0% 数学 5.0% 理科▲1.0%	
項 目	令和3年度	令和4年度								
基礎学力が定着している児童生徒の割合 (全国学力学習調査 通過率)(広島県平均比較)	<小学校> 国語 1.0% 算数▲1.0%	<小学校> 国語 4.0% 算数 3.0%								
	<中学校> 国語▲4.0% 数学▲2.0%	<中学校> 理科 4.0% 国語 3.0% 数学 5.0% 理科▲1.0%								

点検結果	達成度
<p>小学校、中学校ともに、多くの教科において、県平均を大きく上回った。各学校が「改善計画」を基に、子供たちの課題を分析し、継続した取組を積み重ね、基礎基本の力を着実に定着させたことが要因の1つであると考えられる。また、「学びの変革」推進協議会では、とりわけ、「教師のファシリテート」について協議を行い、子供たちが主役となる「主体的な学び」のある授業に向け、研修を深めることができた。今後も、指定事業の研究成果を市内の各学校に広く発信し、市全体への還元を図っていく。</p>	<p>達成している</p>
今後の取組	今後の方向性
<p>各学校において、改善計画に基づいた具体的な取組とともに、学校全体で基礎基本を定着させる取組を継続していく。</p> <p>また、一人1台端末を効果的に活用するなど、個別最適な学びにつながる方策も構築していく。</p> <p>さらに、指定校の研究成果を市内の学校に還元する場を設定することで、指導方法や単元づくり等の改善が図られるようにしていく。</p>	<p>継続</p>

<b>重点的施策 「確かな学力」の向上【学校教育】</b>		<b>担当課</b>						
<b>事業内容</b>		総務学事課						
○基礎学力の定着・向上 ○主体的な学びの創造 ○ICT活用教育 ○特別支援教育 ○ことばの教育の推進 ○授業改善の推進								
<b>事業目標</b>								
将来社会人として地域に貢献し、豊かな人生を送るために、確かな学力を身に付け、自らの進路を切り拓くことができる教養ある児童生徒を育成する。								
<b>主要事業</b>								
学校 ICT 活用 教育推進事業 〔決算額〕 2、957 千円	<b>【事業概要】</b> ・タブレット型端末及び電子黒板等 ICT 機器の活用を進めた。 ・ICT 支援員を配置した。 <b>【取組内容】</b> ・一人1台端末を活用した指導の工夫を行うことができた。また、具体的な活用方法や授業実践などの演習を行うための研修を年間2回行った。 ・ICT 支援員を1名配置し、授業支援等を行った。 ・タブレット端末及び電子黒板を活用した授業実践を充実させた。 <b>【実施状況】</b> <table border="1" data-bbox="427 1182 1246 1301"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ICT活用授業（週時間数）</td> <td>週 45 時間</td> <td>週 63 時間</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	令和3年度	令和4年度	ICT活用授業（週時間数）	週 45 時間	週 63 時間	
項 目	令和3年度	令和4年度						
ICT活用授業（週時間数）	週 45 時間	週 63 時間						
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>						
一人1台端末を「使ってみる」段階から「授業で資質・能力を育むために活用する」段階にシフトし、取組を行った。各校の ICT 活用教育推進リーダーを対象とした研修を年間2回行い、理論研修と発達の段階に即した授業場面での活用の両面から協議を深めることができた。 端末を整備したことにより ICT を効果的に活用した授業展開が広く行われるようになり、活用場面も広がっている。コロナ禍で集合型が難しい際、オンラインによる学習方法も工夫して実施しており、効果的な指導方法の開発も見られた。		達成している						
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>						
ICT 支援員を計画的に各校に配置し、ICT 機器を活用した授業実践を充実させる。また、端末の持ち帰りも含め「個別最適な学び」の実現に向け、個の実態や教科の特性等に応じた活用方法を工夫改善する必要がある。今後も教員対象の研修をさらに充実させることで、活用の幅を広げていく。		継続						

<b>重点的施策 「確かな学力」の向上【学校教育】</b>		<b>担当課</b>
<b>事業内容</b>		総務学事課
○基礎学力の定着・向上 ○主体的な学びの創造 ○ICT活用教育 ○特別支援教育 ○ことばの教育の推進 ○授業改善の推進		
<b>事業目標</b>		
将来社会人として地域に貢献し、豊かな人生を送るために、確かな学力を身に付け、自らの進路を切り拓くことができる教養ある児童生徒を育成する。		
<b>主要事業</b>		
特別支援教育 〔決算額〕 235千円	<b>【事業概要】</b> ・特別支援教育相談委員会を開催した。 ・介助員を配置（27人）した。	
介助員配置 〔決算額〕 47,498千円	<b>【取組内容】</b> 特別支援教育相談委員会規則に基づき、児童・生徒が適切な教育を受けられるよう就学指導を行った。 学校生活や授業等において、支援・介助を必要とする児童生徒に対して介助員を配置した。	
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>
特別な支援が必要と思われる児童・生徒が、適切な教育を受けるために専門的見地から就学指導を行うため、特別支援教育相談委員会において協議している。 介助を配置することにより、児童生徒の学校生活や授業での自立を支援し、その能力と適性を伸長することができた。		達成している
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>
児童・生徒が適切な教育を受けられるよう継続する。 さらに、介助員対象の研修を実施することで、より個の実態に即した効果的な支援ができるよう取り組んでいく。		継続

<b>重点的施策 「豊かな心」の育成【学校教育】</b>		<b>担当課</b>	
<b>事業内容</b>		総務学事課	
○体験活動の充実 ○道徳教育の充実 ○生徒指導の充実 ○伝統・文化等に関する教育の推進 ○キャリア教育の推進			
<b>事業目標</b>			
規範意識を育て、思いやりや自律の心を身に付けた児童生徒を育成する。			
<b>主要事業</b>			
生徒指導支援 事業 〔決算額〕 3、683千円	<b>【事業概要】</b>		
	・竹原市適応指導教室において個の実態に即した指導・支援を行った。 ・教育相談事業を実施した。		
	<b>【取組内容】</b>		
	・適応指導教室や民間企業委託により不登校等児童生徒の社会的自立に向けた支援や相談業務を行った。 ・県教委が設置した「スクールS」を活用し、オンラインによる個別の支援を行った。		
	<b>【成果指標】前期目標（令和5年）＜小学校＞0.15% ＜中学校＞3.00%</b>		
		令和3年度	令和4年度
	不登校児童生徒の割合	小0.3% 中4.5%	小0.4% 中3.6%
<b>点検結果</b>			<b>達成度</b>
<p>適応指導教室や民間企業委託では、不登校傾向にある生徒の相談や学習支援等を行い、社会的自立に向けた取組を進めることができた。また、保護者の相談も受けることで個の困り感に即した取組を行うことができた。</p> <p>県教委の加配措置がある「SSR」の手法や支援方法を「不登校等連絡協議会」において報告させたことで、市内全体に還元することができた。</p> <p>しかし、不登校の割合は増加しているため、個の背景や状況を把握し、改善に向かうよう、多様な支援が必要である。</p>			ある程度達成している
<b>今後の取組</b>			<b>今後の方向性</b>
<p>各学校に配置しているSCやSSWと連携し、児童生徒や保護者の背景や困り感を把握し、解決策や改善策を見出していく。</p> <p>さらに来年度は、自宅から出ることが難しい児童生徒の訪問も視野に入れたコーディネーターを配置し、不登校の未然防止を強化するとともに、解決に向けての選択方法をさらに増やし、学校とより一層連携することで、個にあった対応ができるようにしていく。</p>			継続



重点的施策 「豊かな心」の育成【学校教育】		担当課
事業内容		総務学事課
○体験活動の充実 ○道徳教育の充実 ○生徒指導の充実 ○伝統・文化等に関する教育の推進 ○キャリア教育の推進		
事業目標		
規範意識を育て、思いやりや自律の心を身に付けた児童生徒を育成する。		
主要事業		
竹原市キャリアスタートウィークの実施 〔決算額〕 40千円 道徳教育推進 〔決算額〕 非予算	<b>【事業概要】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアスタートウィークを実施した。</li> <li>・県教委「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」の指定を受け、竹原中学校区のカリキュラム開発を推進し、実践研究を推進した。(竹原中学校区)</li> <li>・竹原市道徳教育推進協議会を年間2回実施した。</li> </ul> <b>【取組内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアスタートウィークを3年ぶりに実施した。今年度から各学校の学校運営協議会を生かし、地域や保護者とともに育みたい資質・能力を明確にした職場体験学習が実施できるように方法等を整理した。</li> <li>・竹原中学校区では外部人材を積極的に活用し、資質・能力の育成に視点をあてたカリキュラムを作成した。</li> <li>・県指導主事を招聘し、竹原市道徳教育推進協議会を年2回実施した。研究授業、協議、講話により、道徳科の授業づくりやカリキュラム・マネジメントの視点を生かした道徳教育推進についての研修を行った。</li> </ul>	
点検結果		達成度
<p>今年度は、各学校の学校運営協議会を活用したキャリアスタートウィークを実施することができた。学校が事業所と子供たちにどのような力を育みたいかを協議することができ、各校の特色が生かせる取組になった。</p> <p>竹原市の道徳教育推進協議会を小学校、中学校、義務教育学校の道徳科授業をもとに実施した。1時間のねらいを達成するための指導方法の工夫や評価についての研修や、カリキュラム・マネジメントの視点を生かした道徳教育の推進について、全体計画をもとに研修を深めることができた。</p>		達成している
今後の取組		今後の方向性
<p>各校において生徒につけたい資質・能力を明確にした、地域の特色を生かした内容になるよう、キャリアスタートウィークの充実を行う。</p> <p>県の指定事業を受けている竹原中学校区の研究成果を広く発信し、9年間を見通したカリキュラムの充実を図っていく。</p>		継続

<b>重点的施策 「健やかな体」の育成【学校教育】</b>		<b>担当課</b>					
<b>事業内容</b>		総務学事課					
○健康教育の充実 ○体力づくりの充実 ○食育の充実							
<b>事業目標</b>							
健やかな心身の発達のために、体力づくりや食育を計画的に推進する。							
<b>主要事業</b>							
体力テストの 分析を通じた 指導の工夫改 善 〔決算額〕 287千円	<b>【事業概要】</b> 体力テスト事業を実施する。						
	<b>【取組内容】</b> 全学年において体力テストを実施するとともに、その結果を分析し、授業や行事等の取組に生かし、児童生徒の体力の向上を図った。						
	<b>【成果指標】前期目標（令和5年）＜小学校＞96.9% ＜中学校＞50.0%</b>						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新体力テストの広島県の平均以上の種目の割合（全学年）</td> <td>県の調査対象が小5及び中2に変更となったため、比較不能</td> <td>県の調査対象が小5及び中2に変更となったため、比較不能</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	令和3年度	令和4年度	新体力テストの広島県の平均以上の種目の割合（全学年）	県の調査対象が小5及び中2に変更となったため、比較不能
項 目	令和3年度	令和4年度					
新体力テストの広島県の平均以上の種目の割合（全学年）	県の調査対象が小5及び中2に変更となったため、比較不能	県の調査対象が小5及び中2に変更となったため、比較不能					
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>					
令和3年度から広島県及び国の調査が小5及び中2のみの調査となったが、コロナ禍の影響もあり子供たちの運動能力は全国的にも低下しており本市でも同様の傾向がある。そのため本市は課題解決のためこれまで通り全学年で実施することとした。調査結果の分析を行うことで課題を明確にし、保健体育科（体育科）はもとより休憩時間や家庭学習を活用し、取組を行った。		ある程度達成している					
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>					
各校においては児童生徒の課題の的確な分析を行うとともに、成果の上がる改善計画の作成・実施が必要である。また、中学校及び義務教育学校後期課程では保健体育科の授業以外にも部活動や学校行事等における体力づくりの実践を進める必要がある。 さらに、「運動やスポーツ好きの児童生徒」の育成に向け、授業内容の改善充実を図っていく。		継続					

<b>重点的施策 充実した環境づくり【学校教育】</b>		<b>担当課</b>
<b>事業内容</b>		総務学事課
○小中一貫教育の推進 ○学校の適正配置		
<b>事業目標</b>		
学校施設の修繕、小中一貫教育の推進、学校規模の適正化など充実した教育環境の整備に努める。		
<b>主要事業</b>		
小中一貫教育の推進 〔決算額〕 非予算	<b>【事業概要】</b> 9年間を見通した指導を徹底するため、小中一貫教育に取り組んだ。 <b>【取組内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年より義務教育学校吉名学園が開校、令和3年度は忠海学園が義務教育学校となり、9年間を見通した特色ある学校づくりを進めた。</li> <li>・竹原中学校区及び賀茂川中学校区については、引き続き連携型小中一貫教育を行った。</li> </ul>	
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>
義務教育学校である吉名学園については、学校運営協議会を積極的に活用した総合的な学習の時間の実践が認められ、令和4年度広島県教育奨励賞を受賞した。また、令和3年度に開校した忠海学園では、異学年交流を意図的に教育課程に取り入れ、義務教育学校の特色を生かした実践を積み重ねている。他の中学校区においても、定期的に小中一貫教育に関する会を開催し、組織的に取組を進めることができている。		達成している
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>
小中一貫教育の取組についてはコミュニティ・スクールの取組と関連を図りながら進め、教育課程に有効に取り入れる等、活用を充実させる。		継続

重点的施策 充実した環境づくり【学校教育】		担当課
事業内容		総務学事課
○小中一貫教育の推進 ○学校の適正配置		
事業目標		
学校施設の修繕、小中一貫教育の推進、学校規模の適正化など充実した教育環境の整備に努める。		
主要事業		
竹原市立学校 適正配置計画 策定事業 〔決算額〕 非予算	<p><b>【事業概要】</b> 竹原市立学校適正配置計画を策定</p> <p><b>【取組内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度竹原市立学校適正配置懇話会から提出された「将来を見据えた市立学校の適正な在り方等について（答申）」を踏まえ、教育委員会会議での数回にわたる議論及びパブリックコメントによる意見募集を経て、今後20年を見通した中で、市立学校の適正規模及び適正配置の具体的なビジョンとして、計画期間を令和5年度から令和9年度とする竹原市立学校適正配置計画を令和4年12月に策定した。また、北部の3小学校と1中学校を統合して新たに設立する義務教育学校の形態（小規模特認校とし、前期課程の児童を仁賀キャンパスを活用して受け入れるなど）を整理し、公表した。</li> </ul> <p>〈計画の主な内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各中学校区にコミュニティ・スクールを核とした義務教育学校を設立し、地域に根ざした9年間の系統性のある小中一貫教育や、地域の教育力を活かした特色ある教育を推進する。</li> <li>・賀茂川中学校区では、仁賀小学校の小規模特認校としての実績や東野・荘野地域での地域活動を含めた機能を充実・発展させるとともに、多様な支援が求められる児童に対応する取組を推進し、誰ひとり取り残さない教育環境を目指す。</li> </ul>	
点検結果		達成度
6回にわたる教育委員会会議における各委員からの自由闊達な意見や98件のパブリックコメントを踏まえ、将来を見据えた市立学校の適正な在り方等について計画をとりまとめることができた。また、常任委員会への説明や市ホームページでの掲載など公表を行うとともに、北部4校の学校運営協議会に計画内容について説明し、理解を求めた。		達成している
今後の取組		今後の方向性
<p>今後は、竹原市立学校適正配置計画に基づき、学校の統合再編等の推進を図る。統合再編を進めるにあたっては、説明会や準備委員会等において、保護者や地域住民に十分寄り添い、理解を得ながら丁寧な対応を行う。</p>		継続

重点的施策 生涯学習拠点・機会の充実【生涯学習・青少年育成】		担当課						
<b>事業内容</b> ○拠点施設の周知広報と学校や文化活動団体等との連携による利用促進 ○地域課題やニーズに応じた講座等の提供		文化生涯学習課 地域づくり課						
<b>事業目標</b>								
市民が生涯学習に取り組む機会を創出し、市民のニーズを満たす学習内容の提供に努めるために生涯学習拠点・機会の充実に取り組む。								
<b>主要事業</b>								
地域交流センター運営事業 〔決算額〕 63、668 千円	<b>【事業概要】</b> 個人の学びに加え、社会ニーズも踏まえた学びを実践するとともに、その学びの成果を活用し、社会全体の教育力を向上させるため、地域交流センターにおいて各種講座、教室等を実施する。							
	<b>【取組内容】</b> 各地域交流センターの創意工夫のもと、地域文化の伝承、教養の向上、体育レクリエーション、家庭教育、ボランティア育成などの講座を実施した。 また、地域住民が講師になり、自治会、協働組織とも連携を行うなど、様々な人材の活用の取組を行った。							
	<b>【実施状況】</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域交流センター利用者数</td> <td>55、111 人</td> <td>78、724 人</td> </tr> </tbody> </table>			項 目	令和3年度	令和4年度	地域交流センター利用者数	55、111 人
項 目	令和3年度	令和4年度						
地域交流センター利用者数	55、111 人	78、724 人						
図書館運営事業 〔決算額〕 53、117 千円	<b>【事業概要】</b> 市民生活や教養、芸術文化の向上に資する書籍等を収集し、それらを市民に広く提供することにより、市民の生涯学習環境を充実させる。							
	<b>【取組内容】</b> 図書館運営事業は指定管理者株式会社図書館流通センターによる委託業務は2年目となり、昨年度に続き、図書館サービス及び移動図書館車巡回や電子図書館サービス、市内小中義務教育学校、地域ボランティアとの連携及び図書館資料管理を適切に行った。また既存事業に加えて、「作家による講演会」を2回、「ぬいぐるみお泊り会」、「バリアフリー映画会」、「図書館ボランティア募集」などを行った。							
	<b>【成果指標】 前期目標（令和5年）38、000 人</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書館利用者数</td> <td>33、657 人</td> <td>33、519 人</td> </tr> </tbody> </table>				令和3年度	令和4年度	図書館利用者数	33、657 人
	令和3年度	令和4年度						
図書館利用者数	33、657 人	33、519 人						

<p>竹原市総合文化祭開催事業 〔決算額〕 683千円</p>	<p><b>【事業概要】</b> 市内の芸術文化活動の推進を図るため、竹原市文化団体連盟と共催し、総合文化祭を開催する。児童生徒の芸術文化活動の活性化を図るとともに、芸術に対する親しみと心の豊かさを育むため、竹原市立学校児童生徒図画書道展を開催する。</p> <p><b>【取組内容】</b> 竹原市文化団体連盟と、竹原市総合文化祭を共催して、舞台部門・展示発表等の機会および鑑賞の機会を提供するとともに、芸術文化振興の向上に寄与した。市内小中義務教育学校、竹原市美術協会との連携により、図画書道展を開催し、児童生徒が文化芸術に触れ合う機会を確保し、心の豊かさの向上に寄与した。</p> <p><b>【実施状況】</b></p> <table border="1" data-bbox="437 837 1375 987"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>竹原市総合文化祭参加団体数</td> <td>20団体</td> <td>21団体</td> </tr> <tr> <td>児童生徒図画・書道展応募者数</td> <td>1,921人</td> <td>2,040人</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和3年度	令和4年度	竹原市総合文化祭参加団体数	20団体	21団体	児童生徒図画・書道展応募者数	1,921人	2,040人
項目	令和3年度	令和4年度								
竹原市総合文化祭参加団体数	20団体	21団体								
児童生徒図画・書道展応募者数	1,921人	2,040人								
<p>ときめき講座開催事業 〔決算額〕 63千円</p>	<p><b>【事業概要】</b> 社会教育を基盤とした人づくり、つながりづくり、地域づくりが学びと活動の好循環となり、市民が「学ぶたのしさ」や「竹原の歴史・文化」に親しむことを通じて、生きがいや楽しみを実感し心ときめく人生となるよう、令和4年度から「たけはらときめき講座」を実施する。</p> <p><b>【取組内容】</b> 公益学校法人立広島県立大学と連携し、「人とつながる・ちいきとつながる」をテーマとした講座を2回に分けて実施し、併せて市HPの生涯学習関連行事の情報を紹介した。</p> <p><b>【実施状況】</b></p> <table border="1" data-bbox="437 1500 1177 1599"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ときめき講座参加者数</td> <td>のべ23人</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和4年度	ときめき講座参加者数	のべ23人					
項目	令和4年度									
ときめき講座参加者数	のべ23人									
<p><b>点検結果</b></p>	<p><b>達成度</b></p>									
<p>新型コロナウイルス感染防止対策を行ったうえで、市民が生涯学習に取り組む機会を創り出すことができた。また、文化生涯学習課の各種行事や講座の募集、実施結果をHP等で情報発信した。</p>	<p>達成している</p>									
<p><b>今後の取組</b></p>	<p><b>今後の方向性</b></p>									
<p>関係課、関係団体と連携を取りながら、環境の充実及び利用者増に向けた取組を行っていく。</p>	<p>継続</p>									

<b>重点的施策 学校と地域の協働による生涯学習の推進</b>		<b>担当課</b>							
<b>【生涯学習・青少年育成】</b>									
<b>事業内容</b>		文化生涯学習課							
○学校と地域の連携強化による生涯学習環境の充実 ○生涯学習を通じた地域活動の担い手の育成									
<b>事業目標</b>									
学びの成果を地域社会に還元し、地域の活力を高めるため、地域活動を担っていく人材の育成に取り組む。									
<b>主要事業</b>									
学びから始まる地域づくりプロジェクト (県モデル事業) [決算額] 0千円	<b>【事業概要】</b> 地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である地域交流センターが、行政や地域の関係機関・団体等と連携・協働して地域課題に対応した学習機会を提供し、学びを通じた地域づくりの活動を促進できるよう、支援を行う。								
	<b>【取組内容】</b> 令和3～4年度に県モデル事業に採択されており、「コミュニティ・スクールに社会教育がどのように関わっていくか」をテーマに、地域交流センターを拠点として、学校と地域が連携して子育てや地域づくりに取り組むモデルの検討を行った。 令和4年度は学校と調整し、地域の花壇を住民と児童が共同で整備する取組や、地域交流センターで児童生徒が制作した作品展示を実施し、学校と地域とが交流する機会を創出した。 また、校長連絡会と地域交流センター長会議において事業結果を報告し、引き続き、地域と学校がより円滑に協働できる仕組みづくりを目指していくことを確認した。								
<b>【成果指標】 前期目標 (令和5年) 50人</b>									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域人材養成講座受講者数 (累計)</td> <td>33人</td> <td>39人</td> </tr> </tbody> </table>		項 目	令和3年度	令和4年度	地域人材養成講座受講者数 (累計)	33人	39人		
項 目	令和3年度	令和4年度							
地域人材養成講座受講者数 (累計)	33人	39人							
<b>【成果指標】 前期目標 (令和5年) 5人</b>									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会教育主事講習終了者数(累計)</td> <td>1人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table>		項 目	令和3年度	令和4年度	社会教育主事講習終了者数(累計)	1人	2人		
項 目	令和3年度	令和4年度							
社会教育主事講習終了者数(累計)	1人	2人							

<p>文化芸術体験等事業 〔決算額〕 5千円</p>	<p><b>【事業概要】</b> 地域住民や児童生徒を対象に、もの作りの楽しさや芸術に関心を持ってもらうことを目的として、講座の開催等を行う。</p> <p><b>【取組内容】</b> 竹原市文化団体連盟と連携し、美術体験講座「絵付け体験、素焼きの皿に絵を描こう！」を開催した。また、各活動団体が主となって、学校において生花・琴・舞踊等を指導し、もの作りの楽しさや芸術に関心を持ってもらい、文化芸術を後世に伝えていく取り組みを行っている。</p> <p>〈参加者の感想〉 ○難しかったです、童心にかえって楽しかった。出来上がりが楽しみです。 ○素焼きのお皿に絵を描く珍しい体験が出来て楽しかった。</p> <p><b>【実施状況】</b></p> <table border="1" data-bbox="437 887 1377 981"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美術体験講座参加者数</td> <td>15人</td> <td>14人</td> </tr> </tbody> </table>		令和3年度	令和4年度	美術体験講座参加者数	15人	14人
	令和3年度	令和4年度					
美術体験講座参加者数	15人	14人					
<p><b>点検結果</b></p>	<p><b>達成度</b></p>						
<p>地域課題に対応した学習機会を提供し、学びを通じた地域づくりの活動を促進できるよう、支援を行った。 地域で活動する人材により、もの作りの楽しさや芸術に関心を持ってもらう機会を創出した。</p>	<p>ある程度達成している</p>						
<p><b>今後の取組</b></p>	<p><b>今後の方向性</b></p>						
<p>来年度以降も地域と協働した取組として引き続き行っていくことで、学校での取組に地域への関わりを強め、地域住民が学校をより身近な存在として感じられる状況となるよう支援していく。 今後も、事業の目的である「いつまでも暮らしていきたいと思える地域」を目指していく。</p>	<p>継続</p>						



重点的施策 スポーツ・芸術の振興【生涯学習・青少年育成】		担当課						
事業内容		文化生涯学習課						
○普及、指導団体を担う人材の育成 ○各種スポーツ・文化芸術イベントの開催								
事業目標								
スポーツ・芸術文化の普及、指導団体を担う人材の育成に取り組むとともに、豊かなスポーツライフ、文化・芸術振興に向けた環境の充実に努める。								
主要事業								
スポーツ 推進委員 活動事業 〔決算額〕 147千円	<b>【事業概要】</b> スポーツの振興のため、地域住民に対しスポーツの実技指導、その他スポーツに関する指導・助言を行う。また、各種研修会・研究大会等にも参加し、相互の情報交流と資質の向上を図る。							
	<b>【取組内容】</b> 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種研修会等の多くが中止になった中で、尾三地区スポーツ推進委員協議会や広島県スポーツ推進委員協議会が実施する研修会に、7名が出席した。また、スポーツ基本法の知識習得や国の動向などの最新の情報提供に努めた。							
	<b>【実施状況】</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>各種研修会参加者数（延）</td> <td>5人</td> <td>7人</td> </tr> </tbody> </table>		令和3年度	令和4年度	各種研修会参加者数（延）	5人	7人	
	令和3年度	令和4年度						
各種研修会参加者数（延）	5人	7人						
トップアスリート等スポーツ教室 〔決算額〕 84千円	<b>【事業概要】</b> 子供たちがスポーツを通じて夢や目標をもち、取り組むことにより、競技力の向上を目指すとともに、様々なスポーツに触れる機会を提供する。加えて、指導者もトップ選手等の指導方法を学び、指導力の向上・育成にもつなげるとともに競技団体の組織強化と地域の競技活動の促進を図る。							
	<b>【取組内容】</b> NPO法人トップス広島の協力を得ながら、加盟団体の選手によるスポーツ教室・講習会を開催する。令和4年度は、市内小中義務教育学校児童生徒および高校生以上の初心者を対象に広島ガスバドミントン部によるバドミントン教室を開催した。							
	<b>【実施状況】</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トップアスリートスポーツ教室等参加者数</td> <td>29人</td> <td>29人</td> </tr> </tbody> </table>		令和3年度	令和4年度	トップアスリートスポーツ教室等参加者数	29人	29人	
	令和3年度	令和4年度						
トップアスリートスポーツ教室等参加者数	29人	29人						

<p>各種大会 等開催事業</p> <p>〔決算額〕 4、380千 円</p>	<p><b>【事業概要】</b> 市民が様々なスポーツに触れる機会を創出するとともに、競技力の向上、健康増進等を目的として、各種大会等を開催する。</p> <p><b>【取組内容】</b> 竹原市スポーツ協会と連携し、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、市民体育大会において予定していた全種目を開催した。 また、3年ぶりに市民ハイキング、竹原駅伝競走大会、竹原ロードレース大会を開催した。</p> <p><b>【実施状況】</b></p> <table border="1" data-bbox="392 696 1331 943"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民ハイキング参加者数</td> <td>中止</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>市民体育大会参加者数</td> <td>905人</td> <td>1、088人</td> </tr> <tr> <td>竹原駅伝競走大会参加チーム数</td> <td>中止</td> <td>30チーム</td> </tr> <tr> <td>竹原ロードレース大会参加者数</td> <td>中止</td> <td>562人</td> </tr> </tbody> </table>		令和3年度	令和4年度	市民ハイキング参加者数	中止	24人	市民体育大会参加者数	905人	1、088人	竹原駅伝競走大会参加チーム数	中止	30チーム	竹原ロードレース大会参加者数	中止	562人
	令和3年度	令和4年度														
市民ハイキング参加者数	中止	24人														
市民体育大会参加者数	905人	1、088人														
竹原駅伝競走大会参加チーム数	中止	30チーム														
竹原ロードレース大会参加者数	中止	562人														
<p>竹原市美術 展開催事業</p> <p>〔決算額〕 95千円</p>	<p><b>【事業概要】</b> 市民の芸術文化活動の推進を図るため、竹原市美術協会と共催により、展示・鑑賞の機会を提供できる展示会を実施する。</p> <p><b>【取組内容】</b> 広く市民から美術作品を公募し、創作活動を奨励するとともに、鑑賞の機会を提供することとし、竹原市美術展を開催した。</p> <p><b>【実施状況】</b></p> <table border="1" data-bbox="392 1413 1331 1509"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市美展応募者数</td> <td>31人</td> <td>29人</td> </tr> </tbody> </table>		令和3年度	令和4年度	市美展応募者数	31人	29人									
	令和3年度	令和4年度														
市美展応募者数	31人	29人														
<b>点検結果</b>	<b>達成度</b>															
<p>新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、スポーツに触れ合う機会の提供に努めた。これまでのつながりを生かした関係諸団体との連携等による人材育成・後継者養成を進めていく必要がある。</p>	<p>ほぼ達成している。</p>															
<b>今後の取組</b>	<b>今後の方向性</b>															
<p>関係諸団体との連携等により、引き続き市民が文化・スポーツに触れ合う機会を創出するとともに、それらを担う人材の育成に取り組んでいく。</p>	<p>継続</p>															

<b>重点的施策 家庭・学校・地域等の連携による教育力向上の推進</b>		担当課									
<b>事業内容</b>		社会福祉課									
子育てに関する学習機会の提供による家庭教育力の向上											
<b>事業目標</b>											
子供が家庭で社会生活に適応するために必要な生活習慣などを身につけながら健やかに成長していけるよう、ニーズに応じた養育支援や子供への直接支援を関係機関と連携して行い、家庭教育力の向上を図ります。											
<b>主要事業</b>											
家庭相談業務 〔決算額〕 5,594千円 子ども会育成事業 〔決算額〕 非予算	<b>【事業概要】</b>										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養育に課題がある家庭の子供の権利を守るため、家庭相談員が関係者と連携を図りながらその保護者等への相談・指導を行う。</li> <li>・子ども会育成団体の自主運営の促進及び子ども会活動の円滑な運営を推進し、児童の健全育成を図る。</li> </ul>										
	<b>【取組内容】</b>										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3名の家庭相談員が養育に課題がある家庭を適宜訪問し、相談・指導を行った。</li> <li>・子ども会育成事業については、子どもの創造性を育むとともに、集団作業により子ども同士の交流を深め、地域の子ども会の活性化を図るため、子ども創作大会（おこづかい帳のつけ方を学ぶ「子どもマネー塾」）を開催した。</li> </ul>										
	<b>【実施状況】</b>										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童相談件数</td> <td>171件</td> <td>152件</td> </tr> <tr> <td>子ども会育成事業の参加児童数</td> <td>中止</td> <td>15人</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	令和3年度	令和4年度	児童相談件数	171件	152件	子ども会育成事業の参加児童数	中止	15人	
項 目	令和3年度	令和4年度									
児童相談件数	171件	152件									
子ども会育成事業の参加児童数	中止	15人									
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>									
関係機関との情報連携を行うことで養育に課題がある家庭を的確に把握し、家庭相談員が保護者に子育てに関する指導を行うなど、家庭教育力の向上を図った。		達成している									
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>									
引き続き家庭相談員を継続的に配置し、養育に課題がある家庭に関わりながら青少年の健全な育成を図る。子ども会育成事業については、子ども会加入児童数が減少傾向にあるため、事業の見直しを行う。		改善									

<b>重点的施策 家庭・学校・地域等の連携による教育力向上の推進</b>		担当課		
<b>事業内容</b>		社会福祉課		
家庭、学校、地域等の連携による地域全体の教育力の向上				
<b>事業目標</b>				
青少年が心身ともに健やかに成長し、自らが持つ個性や能力を活かして社会で自立できるように、家庭や学校、地域などの連携による教育力の向上を図ります。				
<b>主要事業</b>				
青少年育成竹原市民会議 〔決算額〕 908千円	<b>【事業概要】</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちが、相手の立場や心情に共感する力、論理的に物事を考える力、自分の主張を正しく伝える力、広い視野と柔軟な発想や創造性などを身につける機会とすることを目的とする、中学生(義務教育学校後期課程を含む)を対象とした話し方大会を開催。</li> </ul>			
	<b>【取組内容】</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生(義務教育学校後期課程を含む)を対象とした話し方大会を開催し、県大会に推薦した。</li> <li>・青少年育成竹原市民会議の地域活動として、挨拶運動や体験活動、世代間交流を実施した。</li> </ul>			
<b>【実施状況】</b>				
		項 目	令和3年度	令和4年度
		話し方大会参加生徒数	12名	12名
<b>点検結果</b>			<b>達成度</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生(義務教育学校後期課程を含む)を対象とした話し方大会を開催し、市内2中学校・2義務教育学校からそれぞれ選ばれた12名の生徒が、未来への希望や提案などの意見発表を行った。(新型コロナウイルス感染拡大防止のため観客は参加生徒の家族に限定した。)</li> <li>・青少年育成竹原市民会議の地域活動として、挨拶運動や体験活動を実施し、世代間交流ができた。</li> </ul>			達成している	
<b>今後の取組</b>			<b>今後の方向性</b>	
引き続き家庭や学校、地域などと連携した同様の取り組みを通じて、青少年の心身の健やかな成長を促し、地域を支え、世界で活躍する人材を育成する。			継続	

重点的施策 文化財の保存・継承の推進【歴史・文化財】		担当課							
<b>事業内容</b>		文化生涯学習課							
<p>○文化財及び歴史資料の調査・記録</p> <p>○文化財の指定・登録による保存・継承</p> <p>○町並み保存地区における伝統的建造物の保存修理と修景による歴史的景観の保全</p>									
<b>事業目標</b>									
文化財及び歴史資料の調査・記録を実施するとともに、文化財指定・登録等により後世への保存・継承を図る。									
<b>主要事業</b>									
歴史的建造物 調査分析事業 〔決算額〕 1、616千円	<p><b>【事業概要】</b></p> <p>竹原市歴史民俗資料館及び旧松阪家住宅（竹原市重要文化財）について、文化財的価値を明らかにするとともに、今後の保存・活用方針を検討するため、調査を行った。</p> <p><b>【取組内容】</b></p> <p>令和4年度は、竹原市歴史民俗資料館及び旧松阪家住宅の建物調査、史料調査等を行った。</p> <p>なお、令和5年度は、竹原市歴史民俗資料館については、調査結果を取りまとめた調査報告書を作成する。旧松阪家住宅については、引き続き調査を行い、類例調査、史料調査等を進める。</p> <p><b>【成果指標】前期目標（令和5年）35件</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国・県・市指定及び登録文化財件数(合計)</td> <td>36件</td> <td>36件</td> </tr> </tbody> </table>			項 目	令和3年度	令和4年度	国・県・市指定及び登録文化財件数(合計)	36件	36件
	項 目	令和3年度	令和4年度						
国・県・市指定及び登録文化財件数(合計)	36件	36件							
旧森川家住宅 保存修理事業 〔決算額〕 15、326千円	<p><b>【事業概要】</b></p> <p>旧森川家住宅（竹原市重要文化財）を、文化財として適切に保存し、活用を図るため、耐震基礎診断等を実施した。</p> <p><b>【取組内容】</b></p> <p>令和4年度は、旧森川家住宅の離れ座敷について、保存修理のための耐震基礎診断・設計を行った。</p> <p>なお、令和5年度は、耐震基礎診断・設計に基づき、保存修理を実施する。</p>								

<p>伝統的建造物 群保存事業 〔決算額〕 12,000千円</p>	<p><b>【事業概要】</b> 町並み保存地区を保存し、後世に継承するため、建造物の修理を実施した。</p> <p><b>【取組内容】</b> 民間所有の建物の修理2件に対して補助を行った。</p> <p>〈事業成果〉 ○ 長年空き家で傾いていた物件を、継続して修理することで活用につながる事となった。</p> <p><b>【成果指標】 前期目標（令和5年）153件</b></p> <table border="1" data-bbox="424 696 1359 844"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伝統的建造物群保存地区における保存修理・修景事業の延べ実施件数（累計）</td> <td>159件</td> <td>161件</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	令和3年度	令和4年度	伝統的建造物群保存地区における保存修理・修景事業の延べ実施件数（累計）	159件	161件
項 目	令和3年度	令和4年度					
伝統的建造物群保存地区における保存修理・修景事業の延べ実施件数（累計）	159件	161件					
<p><b>点検結果</b></p>	<p><b>達成度</b></p>						
<p>文化財の調査や町並み保存地区内での建造物の修理等に取り組んだ結果、文化財の保存・継承を図ることができた。</p>	<p>達成している</p>						
<p><b>今後の取組</b></p>	<p><b>今後の方向性</b></p>						
<p>文化財の保存・継承をより一層推進するため、文化財の調査や建造物の修理等に取り組む。</p>	<p>拡大・重点化</p>						

<b>重点的施策 文化財の活用の推進【歴史・文化財】</b>		<b>担当課</b>	
<b>事業内容</b>		文化生涯学習課	
○文化財の公開活用の促進 ○文化財の適正な維持管理 ○歴史的建造物の活用に向けた取組			
<b>事業目標</b>			
町並み保存地区をはじめとする文化財を適切に維持し、文化財の公開活用に取り組む。			
<b>主要事業</b>			
文化施設管理 運営事業 〔決算額〕 14,410千円	<b>【事業概要】</b> 伝統的建造物を活用し、文化財に対する意識向上を図るため、文化施設の公開を行った。		
	<b>【取組内容】</b> 文化4施設（旧松阪家住宅・旧光本家住宅・旧森川家住宅・竹原市歴史民俗資料館）について、直営により公開を行った。各施設でキャッシュレス決済を導入するなど新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に取り組みながら、ゴールデンウィーク期間限定で開館時間の拡大・特別公開を行うとともに、旧森川家住宅でアート作品の制作公開・展示を行った。		
	<b>【成果指標】前期目標（令和5年）64千人</b>		
	項 目	令和3年度	令和4年度
	文化4施設入館者数（延べ）	12千人	25千人
	※入館者が前年度よりも倍増したが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けており、コロナ前の入館者の半数程度に留まった。（参考：令和元年度45千人）		
歴史的建造物 社会実験実施 事業 〔決算額〕 990千円	<b>【事業概要】</b> 市が所有する歴史的建造物について、特別感や地域特性を演出できる施設を目指し、民間事業者による社会実験を実施し、成果の評価を行った。		
	<b>【取組内容】</b> 町並み保存地区及びその周辺にある市有の歴史的建造物6施設（竹原市歴史民俗資料館・旧光本家住宅・旧吉井家住宅・旧上吉井家住宅・旧松阪家住宅・旧森川家住宅）を対象として、民間事業者による社会実験を実施し、その事業内容等について評価・分析を行った。		
<b>点検結果</b>		<b>達成度</b>	
文化施設の公開等に取り組んだ結果、一定の程度は文化財を活用することができたが、アフターコロナの状況や来訪者の動向等を踏まえ、歴史的建造物の保存・活用方法を検討する必要がある。		ほぼ達成している	
<b>今後の取組</b>		<b>今後の方向性</b>	
引き続き、直営により文化施設の公開を行う。 その上で、魅力ある施設となるよう企画展示、イベント等に取り組む。 また、市有の歴史的建造物について、社会実験等の成果を踏まえ、今後の歴史的建造物活用の実施方針の作成を行う。		継続	

重点的施策 歴史資産の普及啓発の推進【歴史・文化財】		担当課		
事業内容		文化生涯学習課		
○歴史・文化財に関する講座等の開催による普及啓発 ○文化財に関する情報発信				
事業目標				
本市の歴史や文化財などの歴史資産に対する誇りや愛着を醸成するため、本市の歴史資産の普及啓発を実施し、次世代育成に努める。				
主要事業				
竹原歴史文化啓発事業 〔決算額〕 非予算	【事業概要】 子供たちに竹原の歴史・文化財を知ってもらうため、小学校の総合的な学習の時間において歴史文化の説明を行った。			
	【取組内容】 竹原市歴史民俗資料館等で、竹原市内の小学校3校（竹原西小学校・竹原小学校・中通小学校）の児童に対して、町並み保存地区、伝統産業等の説明を行った。 〈児童の感想〉 ○ 建物の中にある庭が広くてきれいですごいと思った。 ○ 昔の家と今の家がすごく違ってびっくりした。 ○ これから町並み保存地区のことをもっと調べたい。			
	【成果指標】前期目標（令和5年）80人			
		項 目	令和3年度	令和4年度
		市内小学校等の文化4施設の社会科見学等による児童来館者数（延べ）	96人	156人
重伝建選定40周年記念事業 〔決算額〕 1,290千円	【事業概要】 町並み保存地区の重要伝統的建造物群保存地区選定40周年を契機として、改めて保存地区に対する誇りや愛着を醸成するため、記念事業を実施した。			
	【取組内容】 記念式典・記念講演会を開催するとともに、古写真を取りまとめた写真集を作成し、記念式典出席者等に配付した。 また、町並み保存地区が塩造りで発展した歴史を有していることから、塩のインスタレーション作品の展示を行った。			
点検結果		達成度		
児童への歴史文化の説明や重伝建選定40周年の記念事業等に取り組んだ結果、歴史資産の普及啓発を進めることができた。		達成している		
今後の取組		今後の方向性		
引き続き、歴史資産の普及啓発を進めるため、歴史・文化財に関する講座の開催や情報発信等に取り組む。		継続		



## 4 評価委員の評価

### 【評価委員】

広島経済大学教授	胤森 裕暢
広島大学准教授	米谷 剛
元竹原市PTA 連合会会長、元豊竹PTA連合会会長	辰己 寛
広島県教育委員会生涯学習課社会教育監	宮田 幸治
湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)館長	植田 千佳穂

教育委員会の事務の点検及び評価を行うにあたり、令和5年8月29日に学識経験者5名により、次のとおり点検及び評価をいただきました。

### I 総括的な意見

技術革新等により情報化、グローバル化が進展していく中、社会の構造も大きく変化している。

質の高い知識を基盤とする今の社会は、子供たちが成人する頃になると、予測が困難な時代、厳しい挑戦の時代を迎えるともいわれる。こうした中であって我が国では、一人一人がよく成長し、質的な豊かさを伴う未来社会の担い手となれるような教育施策が求められている。

本市教育委員会はこれらのこともふまえ、『生まれて良かった、住んで良かった、帰ってきたい、住んでみたい』と思える元気な竹原市の実現」を基本理念とする第6次竹原市総合計画を上位計画に、「教育の充実を図るだけでなく、地域全体で子供の教育を支援する体制づくり」を求め、竹原市教育大綱を策定しておられる。大綱は、「故郷を大切に、未来を拓く人づくり」を基本理念とし、将来像、目標像、そして取組の方向性については学校教育、生涯学習・青少年育成、歴史・文化財の3つを「施策の柱」として示しておられる。以下、これら「施策の柱」ごとに総括的な意見を申す。

#### 「施策の柱1 学校教育」

学習指導要領等の国の方向性を基に、広島県の求める授業、学習指導のあり方をよく研究し、各校ですぐれた学力向上の取組、特色有るカリキュラムの開発が進められている。幼保小連携教育、特別支援教育、キャリア教育、道徳教育、生徒指導の視点からも、全市的にすぐれた取組、きめ細

かい指導・支援、実践的な研究が進められている。教職員の人材育成も着実に行われている。

これからの竹原市らしい学校教育を追求すべく、全市的にコミュニティ・スクールを特長あるものにするための協議が重ねられており、すでに、それを生かしたすぐれた小中一貫教育も実践されつつある。また学校適正配置計画は、適正配置懇話会の答申をふまえ、さらに市民の声を丁寧を受け止め、議論を積み上げながら策定されており、高く評価できる。

### 「施策の柱2 生涯学習・青少年育成」

地域交流センターは市民の生涯学習の拠点として、またコミュニティ・スクールとの関わりをテーマにしながら、充実した取組を進めている。図書館も多様な取組を展開し、市民の利用を掘り起こしている。コロナ感染対策を講じながら、スポーツ教室や各種大会を開催し、子供から大人まで多くの市民を対象にスポーツ振興を図っている。広く市民から作品を公募する竹原市美術展の開催は芸術の振興にとって意義深い。

家庭相談員による継続的な相談・指導、子ども会として子供たちの生活習慣を身に付けさせる取組、青少年育成竹原市民会議の話し方大会等の取組は着実に進められており、子供たちの健全な育成につながってゆくと評価できる。

### 「施策の柱3 歴史・文化財」

本市の歴史的魅力を体現する、伝統的建造物群保存地区の保存は着実に行われている。その活用については、多彩な取組が進んでおり、社会実験を通して、さらなる工夫・改善も期待できる。普及啓発は、時宜を得た記念事業と小学校での工夫された取組が展開されている。今後も学校教育、生涯学習・青少年育成の観点から、さらなる普及啓発の工夫がなされ、市民としての深い理解、シビックプライドの醸成を図られたい。

## II 各「主要事業」に対する意見

以下、各「主要事業」について意見を申す。

### 「施策の柱1 学校教育」

#### (1) コミュニティ・スクール推進事業

周到な準備のもと令和3年度までに全校に導入された本市の学校運営協議会は、令和4年度には、コロナ禍にもかかわらず計画的に会議を行い、事務局が指導助言にあたり、様々な声を生かした協議が行われた。教職員と学校運営協議会委員を対象とした研修会も行われ、コミュニティ・スクールに対する理解が深められたことも評価できる。竹原市としての特長を生かすコミュニティ・スクールが展開され、導入段階の目標が達成されつつあること、コミュニティ・スクールを生かした取

組が、実感されていく段階に入ってきていることが伺える。

今後は、今年度実施されなかったが、取組状況を交流したり好事例を学んだりする場（「竹原市コミュニティ・スクール連絡協議会 仮称」）が期待される。また各学校のホームページの充実や竹原市のホームページや広報紙での紹介、フォーラムの開催など、市民への周知と理解の促進を図ることも効果的である。さらに本市他事業と関連させ展開してゆくことで、よりよく浸透していくと考えられる。他に意識調査を実施し、ここまでの実態把握をすることも有効ではないか。

## **(2) 教職員の人材育成**

広島県教員等資質向上指標をもとに、計画的な研修、個別指導などを織り込み、本市教職員の職能発達が着実に図られていると考えられる。特に推薦研修への推薦、管理職選考受験は、竹原市でこそ、教職員として成長でき、学校経営に参画してゆけることの具体として肝要である。

今後、新規採用者をはじめ、あらゆるキャリアステージの教職員が、研修履歴を活用した対話的な研修等を通じて、日々の授業力、生徒指導力、学級経営力等だけでなく、学校運営協議会等を生かし、開かれたカリキュラムをつくり、学校づくりを進められる力、地域づくりにも関与できる力量を形成できるよう、研修内容の工夫・改善を期待したい。さらに研修体系の構想についても願う。

## **(3) 幼保小連携教育**

幼保小連携協議会を立ち上げ、方向性を共有できる体制を構築したり、計画的に効果的な保育・授業参観や理論研修を続けたりする等、大きな成果をあげている。具体的には研修で、4、5月段階の新入生へのアプローチカリキュラムについてよく協議されていたが、登校渋りやその後の不登校の未然防止に有効と考えられる。

今後、連携を進める上で、コミュニティ・スクールの活用をさらに広げられないだろうか、検討いただきたい。

## **(4) 未来の人材育成事業**

1 DAY国内留学Ⅰ、そして1 DAY国内留学Ⅱ、さらにハワイへの海外派遣研修（含む令和2年度の決定者）と帰国後の報告会、姉妹校とのオンライン交流は、多くの本市児童生徒が、多文化に触れるとともにグローバルな視点を持つことにつながるすぐれた取組と考える。この事業を含めた各学校における取組は、本市の英語力向上につながっているものと考えられる。

今後は、参加者の感想に、次の学びにつなげたいとあるように、日々の学習活動やカリキュラムといかにつながっているか、どのように学習してゆけばよいか、児童生徒や保護者等にわかりやすく示されることを期待する。また、報告会や感想文等の作品展示を校内児童生徒にだけでなく、市民や市外から訪れる人に広く周知するため、町並み保存地区、地域交流センター、オンライン会議等で開いたりできないだろうか。これに関わってきた多くの市民の意識を高め、学区を越えて、より多くの児童生徒の関心を引き出すことに繋がるのではないか。

他に、英語検定3級取得率の目標値については、教育委員会としてどのように設定していくか、またそのためにどのような支援をしてゆくか、具体的に検討してほしい。

## **(5) 「学びの変革」全校展開**

「学びの変革」推進協議会を要とする授業改善、研修は着実に進められている。また小学校にお

いて低学年からの学びをサポートする研究指定を受けたり、義務教育学校において探究的なカリキュラムを研究開発する指定を受けたりするなど、すぐれた実践的研究を推進している。指定校の研究成果を全校が共有し手がかりにしたり、保護者や学校運営協議会等にも開いたりして、竹原市としての学校教育が培われていくことを期待する。

そして、全国学力学習状況調査通過率が小学校、中学校の多くの教科で、県平均を大きく上回ったことは、本市各学校の丁寧で的を射た児童生徒の実態把握、継続的で適切な学習指導による大きな成果と考えられる。

こうした本市学校によるすぐれた学習指導は、広く保護者や地域に共有されてよいと考える。通学させて良かった、通わせたいと思ってもらえるのではないかな。

#### **(6) 学校 ICT 活用教育推進事業**

全市的に ICT を活用した授業の週時間数を増やただけでなく、効果的に活用する授業も広く展開している。また発達の段階に応じて、その資質・能力を育てるように授業で活用するためのリーダー研修を行うなど、先進的な取組が着実に続けられている。実態把握、効果的な支援、充実した研修などの要となる ICT 支援員の効果的な支援活動に依るところも大きいと考えられる。今後も、学校教育に通じているなど適切な人材を確保しながら、授業活用を推進していただきたい。

なお引き続き、情報モラルなどの指導も推進いただきたい。また「個別最適な学び」とともに、多様な他者と、異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出す「協働的な学び」も意識した ICT 授業活用も考えられないだろうか。

#### **(7) 特別支援教育**

特別な支援が必要と思われる児童生徒を主たる対象に、適切に介助員を配置し、特別支援教育相談委員会での専門的な協議を通して、学校生活や授業での自立支援を進めている。

今後も研修の充実を含め支援体制づくりを進めて、誰一人残すことのない最適な学びが保障されるよう努めていただきたい。

#### **(8) 生徒指導支援事業**

コロナ禍もあり近年、不登校児童生徒数、いじめの認知件数は全国的に増加傾向にある。本市の不登校児童生徒の割合の大きさも例外ではない。これに対して本市では、適応指導教室や民間企業委託のスタッフによる児童生徒の相談、学習支援、保護者の相談等を細やかに行うとともに、広島県教育委員会の不登校 SSR (スペシャルサポートルーム) 推進校の指定を受けた 3 校 (竹原小学校、竹原西小学校、忠海学園) の取組を、不登校連絡協議会で共有するなど着実な取組を進めている。

今後も計画的な研修の充実、また訪問やオンラインまで含め関係を切らない継続的な相談や支援の工夫を検討いただきたい。さらに、どの児童生徒も生徒指導支援の対象なのであり、個別最適な学びの保障、SC、SSWそして専門機関との円滑な連携まで含めた本市らしいきめ細かい支援体制の構築を願う。

#### **(9) 竹原市キャリアスタートウィークの実施、道徳教育推進**

コロナ禍を乗り越え、全市的にキャリアスタートウィークを実施したことは高く評価される。特に学校運営協議会を生かして、地域や保護者と育てたい資質・能力を明確にして、実施したことは

効果的と考えられる。また竹原中学校区が、広島県教育委員会の指定を受け、9年間を見通したカリキュラムの研究開発を進めていることへの期待は大きい。

さらにカリキュラム・マネジメントの視点をもって研究授業・協議を行う道徳教育推進協議会を2回実施しており、本市として道徳教育のカリキュラム改善・開発を推進していると考えられる。本市の道徳教育カリキュラムにも学校運営協議会を生かすことはできないか、そしてキャリア教育と道徳教育をしっかりと連携させた竹原市の学校らしいカリキュラム開発はできないか、検討いただきたい。

#### (10) 小中一貫教育の推進

9年間を見通した指導を徹底するよう、それぞれの学園、中学校区が着実な取組を進めている。

先行して義務教育学校となった吉名学園では、学校運営協議会を生かした総合的な学習の時間の実践が県奨励賞を受賞するなど、「学校運営協議会を中核とする義務教育学校づくり」（「将来を見据えた市立学校の適正な在り方等について（答申）」、令和4年2月4日）が大いに進んでいる。忠海学園も、魅力的な実践とカリキュラムづくりが進んでおり、高く評価できる。これら先行するカリキュラムづくりを手がかりに、他の中学校区の小中一貫教育に関する会を要とする研究協議が今後、「9年間の系統性をもって、地域と学校が連携・協働して子供たちを育てる」（「竹原市立学校適正配置計画」、令和4年12月、令和5年6月改訂）、新たな魅力あるカリキュラムを創り出すことを大いに期待する。

#### (11) 竹原市立学校適正配置計画事業

本事業は、第6次竹原市総合計画のもと、竹原市教育大綱が掲げる本市学校教育の将来像（10年後の目指す姿）を達成するうえで主幹となる。

さらにその先の本市学校教育の在り方を明らかにしてゆく上で、竹原市立学校適正配置懇話会の答申内容（令和4年2月4日）は示唆に富む。地域とともに進める学校づくりが、学校を中心とした地域づくりにつながる事が唱えられている。

学校適正配置は、本市の子供たちの健やかな成長とともに、地域の創生まで視野に入れ進められてゆくことが肝要なのである。具体的には、市民の意見をよく受け止めながら、学校運営協議会がしっかり機能する竹原市らしい義務教育学校づくりが進むよう、計画されることが期待されている。

この視点から本事業をみると、竹原市立学校適正配置懇話会の答申をふまえ、教育委員会で議論を重ね、竹原市立学校適正配置計画（案）に対するパブリックコメントの吟味を通して、「地域に根差した9年間の系統性のある小中一貫教育や、地域の教育力を活かした特色ある教育を推進する」ことが確認され、北部に設立する義務教育学校（仮称 賀茂川学園）を小規模特認校とすることが整理されるなどして、同計画を策定し公表しており、高く評価できる。

今後、それぞれの義務教育学校において、竹原市らしい、すぐれたコミュニティ・スクールをつくりあげてゆくには、再び竹原市立学校適正配置懇話会の答申が手がかりとなるだろう。その「はじめに」に記された、子供たちにとって「地域がもう一つの教室、地域住民がもう一人の先生、地域教材がもう一つの教科書…」として機能するよう、各学校運営協議会に粘り強く協力を要請することである。

## 「施策の柱2 生涯学習・青少年育成」

### (12) 地域交流センター運営事業・図書館運営事業

令和元年度に公民館から移行した本市地域交流センターは、公民館の生涯学習事業を受け、コロナ感染防止対策を行い各種講座、教室を展開し、生涯学習の拠点として、その機会充実に取り組んでいる。地域住民が講師になる、自治会と連携するなど、人材活用にも取り組んでいる。利用者数も令和3年度と比べて大幅に増加している。さらなる充実発展を大いに期待する。

例えば、市が収蔵する美術品や各種講座・教室での市民作品の展示など考えられないだろうか。

図書館運営事業も、市民の生涯学習を充実させている。移動図書館車巡回も多く行われ、利用者も相当数あり、意義は大きいと考える。既存事業に加え、新たな活動を展開されており、幅広い市民の利用を掘り起こしているといえる。例えば図書館ボランティアや諸活動に、本市学校の参画を得ることなどは考えられないだろうか。検討いただきたい。

### (13) 学びから始まる地域づくりプロジェクト

令和3～4年度の県モデル事業にも採択され、地域交流センターが、コミュニティ・スクールにどう関わっていくかをテーマに、学校と調整を図り、地域の花壇の整備、児童生徒の作品展示など具体的な諸活動を展開されており、諸会議での報告も進められている。

学校と地域が連携して活動する場としてさらに充実させる取組を進めていただきたい。例えば、長期休業中や週末の児童生徒の自習の場、大人と児童生徒が互いの書画作品を紹介したたえ合う場、合同演奏会、市民向けパソコン教室、未来の町づくり企画会議（仮称）、これらの活動にジュニアスタッフとして参画するなどできないだろうか。

### (14) トップアスリート等スポーツ教室、各種大会等開催事業、竹原市美術展開催

トップアスリートを招聘してのスポーツ教室・講習会で小・中学生等が直接指導を受けられたことは、子供たちの競技力だけでなく、意欲等の向上につながったと考えられる。

また様々なスポーツの大会が全面的に再開され、多くの市民、多数のチーム参加を得たことは、本市スポーツ振興に大きな意義を持つ。高く評価されるべきである。各種大会のボランティアスタッフとして、本市中学生等などが参画することはできないだろうか。また小・中学生等各スポーツ教室で学んだことを、その後、本市での各種大会につなげる（例えば、バドミントンの大会など）は考えられないだろうか。

広く市民から作品を公募する竹原市美術展の開催は、展示・鑑賞の機会を提供し、芸術への親しみ、創作への意欲を増すことにつながり、意義深いと考える。同時に市が収蔵する美術品の展示や本市の児童生徒の美術部等の招待作品の展示など（本市の「児童生徒図画・書道展」とは別）は考えられないだろうか。

### (15) 家庭相談事業、子ども会育成事業、青少年育成竹原市民会議

家庭相談員による相談件数は昨年度と比べると微減であるが、確かな相談・指導とその継続が、支えになっている保護者、そして児童はやはり相当数いる。引き続き相談・指導、関係機関との連携の充実を願う。

「子どもマネー塾」開催は、本市の子供たちが生活習慣を身につけ、健やかに成長していくために意義深い。家庭での生活習慣を身に付ける学びを引き続き工夫していただきたい。

青少年育成竹原市民会議の取組、話し方大会、挨拶運動、体験活動、世代間交流は、本市の青少年が健やかに成長し、その個性や能力を活かして社会で自立できるよう、家庭や学校、地域が連携して行う優れた取組と考えられる。特に中学生（義務教育学校後期課程を含む）を対象とする話し方大会は、「未来への希望や提案などの意見発表」を行うものであり、本市教育大綱の「施策の柱1 学校教育」が10年後に目指す姿にもつながっている。

本大会のさらなる充実と発展を望む。充実させるには例えば、これまでの大会実績をふまえて、評価のポイントを明らかにしたり、各校でどのように指導するのか、どのように選ぶのか生徒によく指導したり、保護者や学校運営協議会に案内したり、選抜や講評に参画したりしてもらう。意見発表の会場に、会場を町並み保存地区など、本市を象徴する場を生かす等である。検討いただきたい。さらに発展的には、本市全校の学校運営協議会や教育委員、市長、副市長、議員等の出席、講評を得る。未来の町づくりなどをテーマとする部門も設け、臨時の青少年議会の意味合いを持たせる等もできるのではないだろうか。

### 「施策の柱3 歴史・文化財」

#### (16) 伝統的建造物群保存事業など保存・活用・普及啓発一連事業

近世初期から、先駆的な製塩業を基盤に、醸造業や廻船業、問屋業など多角経営を行い、賑わいを極める中、町人たちが国学や朱子学、漢詩や茶道などの学問・芸術に親しみ、頼家をはじめ多くの町人学者を輩出してきた竹原地区の歴史的魅力を体現する、伝統的建造物群の保存事業は、建物調査や史料調査、耐震基礎診断、民間所有の建物の修理等が着実に行われている。

その活用については、コロナ感染症対策を講じながら、多彩な取組が進められており、文化4施設入館者数（延べ）も大いに回復してきている。社会実験も行われ、さらなる工夫・改善が期待できる。

普及啓発については、重伝建選定40周年記念事業として記念式典・記念講演会、インスタレーション作品展示などが行われ、時宜を得た魅力的な取組がなされている。また本市小学校では「総合的な学習の時間」に、本市の歴史文化について指導したり、3小学校の児童に対しては歴史民俗資料館で説明がされたりしており、的を射た取組がなされている。

今後も学校教育、生涯学習・青少年育成の観点から、さらなる普及啓発の工夫がなされ、市民としての深い理解、シビックプライドの醸成を図られたい。例えば、国内留学、海外派遣研修の報告や話し方大会の主会場として活用できないか。児童生徒が、「総合的な学習の時間」等でまとめ上げた内容を生かしながら、日本語や英語でボランティアガイドをすることも考えられないだろうか。児童生徒の学習意欲を高め、市民としてのシビックプライドを醸成し、本市の魅力が体現できると考えられる。

## (1) 竹原市教育大綱（抜粋）

### ○ 施策体系

第6次竹原市総合計画～前期基本計画～を構成する4つの将来像のうち、「文教のまちたけはら」の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち」「自然・歴史・文化に生まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち」を目指すため、竹原市教育大綱では、『故郷を大切にし、未来を拓く人づくり』を基本理念として設定しました。

この基本理念を実現するため、総合計画の施策の方向性を活かしつつ、教育大綱では、「学校教育」、「生涯学習・青少年育成」、「歴史・文化財」の3項目を柱とし、10年後の目指す姿を掲げ、取組の方向性を示しています。

#### 将来像

【人材】「文教のまちたけはら」の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち」

【個性】「自然・歴史・文化に生まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち」

#### 目標像

【人材】子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている

【人材】市民一人一人が自ら学び、様々な場面で協力しながら活躍している

【個性】竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれている

#### 教育大綱：3つの柱【10年後の目指す姿⇒取組の方向性】

##### ○【人材】学校教育

夢をもち、多様な人々と協働し、社会を主体的に生き抜くことが出来る人材を育成している

##### ○【人材】生涯学習・青少年育成

- ・多彩な生涯学習の場が充実し、それらを担い、推進していく人材が育っている
- ・教育上特別な配慮を必要とする児童生徒等への適切な支援をはじめ、乳幼児から青少年まで健全に成長できる環境が充実している

##### ○【個性】歴史・文化財

歴史と文化財が保存・継承され、地域の活性化に活かされている

#### 基本理念：故郷を大切にし、未来を拓く人づくり



(2) 令和4年教育委員会会議開催実績

教育委員会 開催年月日	開催回数 定例臨時別	議案 番号	件 名
R4. 1. 14	第1回 臨時会	1	要保護及び準要保護児童生徒援助費支給要綱の一部を改正する告示案
R4. 1. 27	第1回 定例会	2	令和4年度竹原市学校教育ビジョンについて
		3	令和4年度竹原市社会教育・生涯学習推進ビジョンについて
		4	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和3年度教育委員会関係補正予算案）
		5	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和3年度教育委員会関係当初予算案）
R4. 2. 17	第2回 定例会	6	県費負担教職員の任免その他の進退についての広島県教育委員会への内申について
		7	竹原市教育委員会永年勤務職員表彰について
		報告・ 協議	竹原市立学校適正配置懇話会答申について
R4. 3. 9	第2回 臨時会	8	令和4年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について
R4. 3. 16	第3回 臨時会	報告・ 協議	令和3年度末・令和4年度始教職員の内申について
R4. 3. 23	第4回 臨時会	13	職員の任免その他の人事について
		14	竹原市教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部を改正する規則案
		15	竹原市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令案
R4. 3. 24	第3回 定例会	9	学校運営協議会委員の任命について
		10	竹原市立学校における医療的ケア実施要綱案
		11	市立竹原書院図書館管理運営規則の一部を改正する規則案
		12	竹原市立学校職員服務規程の一部を改正する訓令案
	報告・ 協議	学校における働き方改革取組方針について	
R4. 4. 28	第4回 定例会	報告1	臨時代理処分の承認について（学校薬剤師のについて）
		16	学校運営協議会委員の任命について

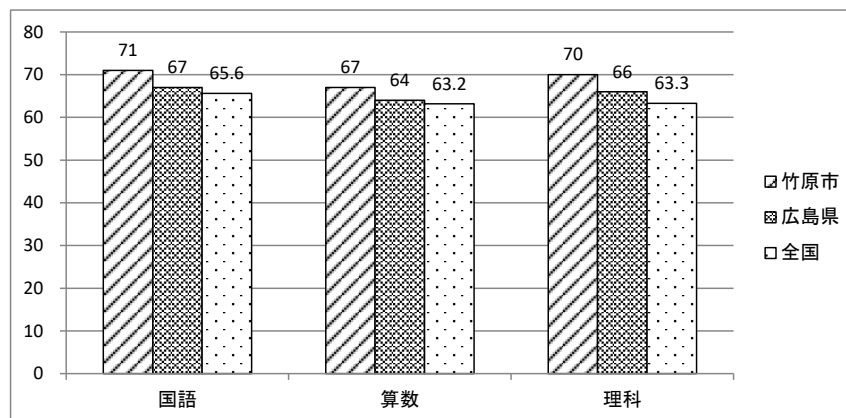
R4. 5. 26	第5回 定例会	17	学校運営協議会委員の任命について
		18	市立竹原書院図書館協議会委員の任命について
		19	たけはら美術館協議会委員の任命方針について
R4. 6. 23	第6回 定例会	20	竹原市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について
		21	竹原市特別支援教育相談委員会委員の委嘱について
		22	竹原市特別支援教育相談委員会推進員の委嘱について
		23	竹原市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について
		24	令和5年度使用教科用図書採択基本方針等について
		25	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和4年度教育委員会関係補正予算案）
		報告・協議	竹原市立学校適正配置計画について
R4. 7. 28	第7回 定例会	26	竹原市教育委員会表彰について
		27	学校運営協議会委員の任命について
		28	竹原市社会教育委員の任命について
		29	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和3年度教育委員会関係決算案）
		報告・協議	竹原市立学校適正配置計画について
R4. 8. 29	第5回 臨時会	30	令和5年度使用特別支援学級用教科用図書の採択について
R4. 9. 1	第8回 定例会	31	令和3年度教育委員会事務点検・評価報告書について
		32	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和4年度教育委員会関係補正予算案）
		報告・協議	竹原市立学校適正配置計画について
R4. 9. 22	第9回 定例会	報告・協議	竹原市立学校適正配置計画について
		報告・協議	竹原市成人式の名称変更について
R4. 10. 27	第10回 定例会	33	竹原市特別支援教育相談委員会委員の委嘱について
		報告・協議	広島県公立学校教職員人事異動方針について

R4.11.24	第11回 定例会	34	定例市議会に提案される教育委員会関係の議案について（令和4年度教育委員会関係補正予算案）
		報告 ・ 協議	竹原市立学校適正配置計画について
R4.12.22	第12回 定例会	35	竹原市立学校適正配置計画について
		36	竹原市竹原地区伝統的建造物群保存地区保存計画の一部を改正する告示案

### (3) 令和4年度全国学力・学習状況調査結果

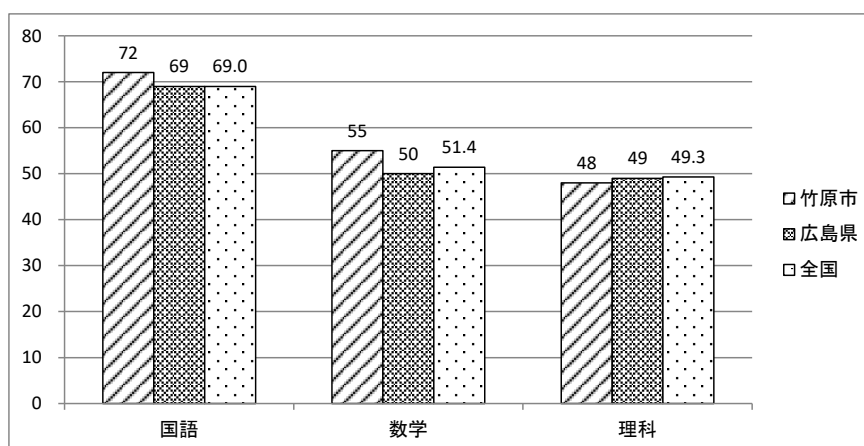
#### 【小学校・義務教育学校】

	国語	算数	理科
竹原市	71	67	70
広島県	67	64	66
全国	65.6	63.2	63.3



#### 【中学校・義務教育学校】

	国語	数学	理科
竹原市	72	55	48
広島県	69	50	49
全国	69.0	51.4	49.3



(4) 令和4年度体カテストの結果

小5男子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
R03竹原市	17.75	19.16	35.97	43.65	50.68	9.39	154.82	22.72	55.56
R04竹原市	17.57	19.21	35.86	43.37	47.52	9.43	149.60	22.63	54.52
R04広島県	16.07	18.99	33.71	40.51	45.89	9.52	151.92	22.21	52.92

小5女子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
R03竹原市	17.86	21.18	40.11	45.00	49.99	9.31	159.03	16.49	62.11
R04竹原市	15.99	19.62	38.86	41.45	42.68	9.83	146.43	14.25	56.61
R04広島県	15.99	18.21	38.13	38.89	37.01	9.68	145.93	13.85	54.89

中2男子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
R03竹原市	33.12	27.54	48.20	53.47	76.79	7.89	201.94	21.44	45.33
R04竹原市	30.24	27.50	43.21	52.04	76.69	8.11	195.90	18.88	40.91
R04広島県	29.12	26.09	44.25	51.68	76.93	7.97	197.10	20.64	41.82

中2女子

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
	(kg)	(回)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(m)	(点)	点
R03竹原市	26.18	24.61	51.00	47.72	61.44	8.70	176.14	13.90	54.94
R04竹原市	25.94	22.92	45.84	48.84	50.05	8.81	175.48	12.81	50.90
R04広島県	23.14	22.22	46.70	46.35	49.95	8.89	167.43	12.87	48.09

(5) 生徒指導上諸課題の状況(令和2年度～令和4年度)

暴力行為		竹原市		広島県	
		発生 件数	1000人 あたり	発生 件数	1000人 あたり
小学校	R02	3	3.2	1,441	9.6
小学校	R03	3	3.4	1,965	13.2
小学校	R04	1	1.2		
中学校	R02	0	0.0	884	11.7
中学校	R03	1	2.1	959	12.6
中学校	R04	0	0.0		

いじめ		竹原市		広島県	
		認知 件数	1000人 あたり	認知 件数	1000人 あたり
小学校	R02	2	2.1	3,794	25.2
小学校	R03	15	17.0	4,154	27.9
小学校	R04	3	3.6		
中学校	R02	3	6.6	1,471	19.5
中学校	R03	13	27.7	1,388	18.2
中学校	R04	2	4.2		

不登校		竹原市		広島県	
		人数	割合(%)	人数	割合(%)
小学校	R02	4	0.42	1,638	1.09
小学校	R03	3	0.34	2,062	1.39
小学校	R04	4	0.48		
中学校	R02	9	1.99	2,796	3.70
中学校	R03	20	4.26	3,701	4.85
中学校	R04	17	3.56		

(6) 令和4年度図書館・美術館利用状況

①竹原書院図書館利用状況

本館開館日数 290日

移動図書館車 96日

図書の利用

		本館	移動図書館車	合計
個人貸出	登録者数	15,730	—	15,730
	貸出者数	27,548	5,971	33,519
	貸出冊数	126,714	17,690	144,404
団体貸出	団体登録者数	137	—	137
	貸出冊数	6,765	37,750	44,515
停本所	停本所数	10	—	10
	貸出冊数	9,007	—	9,007
貸出冊数合計		142,486	55,440	197,926

②文化創造ホール利用状況

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用日数	47日	66日	54日
展示会	27日	34日	28日
文化講演・講座	0日	0日	0日
演奏会等	0日	0日	0日
参加型イベント	0日	0日	0日
講習会等	11日	17日	16日
展覧会等準備日数	9日	15日	10日
利用件数	11件	21件	19件
年間入場者数	2,335人	2,717人	2,840人
1日平均入場者数	49.68人	41.16人	52.59人